

幼児の生活と集団指導

堀合文子



“学級としてまとまって活動する時間”。幼児と一緒に生活するものにとって、一番むずかしく、一番困り、一番まちがえやすい、このことばは、実際どのように考え、どのように幼児に与えていったらよいだろうか。

××

××

××

学級としてまとまって活動する場合として、二つの状態を考えられる。

一つは、教師が計画のもとに、学級としてまとまって活動する時間で設定する場合と、

一つは、幼児の自発活動が発展して、学級としてまとまって活動する時間になる場合、とが考えられる。

(一) 前者の場合

教師は常に幼児の生活状態、発達状態を細かく観察している。そのため、幼児の伸張発達のため、教師の計画をより有効に幼児に与えるための一つの方法として、学級としてまとめて活動する時間を持つ。

例えば、

最近、組の幼児全體の生活状態が落ちつかず、仕事をしても、遊んでも落ちつかなく、興味もうすい。

組全體で相談することがある。

組全體で約束することがある。

一つは、幼児が、友だちの皆が経験する経験に興味がなく、教師の誘導にものらないので友だちの刺戟を与えその一方法にしたい。

一幼児が團体生活をする上に問題点がある。

入園当初、教師も、幼児も共に園の生活に馴れないでの、管理上まとめて活動する時間が必要だし、また、その幼稚園の生活をお

くる上に必要な習慣としての団体行動にも馴れさせる必要がある。

グループ指導、幼児の自発活動を誘導し指導していく自由な指導形態にもつていく一つの過程として必要である。

おべんとうをたべる。

帰園の準備をし帰園する。

など、これらの場合、教師が一つの計画として、「今日は学級としてまとまって活動させよう」との意図を持ち、友だちの刺戟、団体行動のたのしさによってその保育指導をより効果的にする一つの方法として学級としてまとめて活動する時間を持つ。

(二) 後者の場合

幼稚園の教師は、幼児の年令に適した教育をしようと努力している。もちろん、小、中、高にしても教師の努力においては同じことだが、とくに幼児期は特殊で、将来の基盤になるこの時期をいかに正しく適した指導をするかと常に努力している。幼児独特の遊びの中での指導は一応幼児を幼児として生活させるのに自然で、適切と信じ、いかに無理なく幼児期に適切な経験をさせるかと研究しながら遊びの中に教師の指導を入れている。したがって自然とその指導形態は、グループか、個人指導の形となつてあらわれる。ところが教師の技術により、またはその材料の魅力によつて、グループや個人が、次第に組全体の活動へ発展することがしばしばある。

また、教師もグループ指導から発展させて、学級としてまとまって活動する時間に発展するように技術を働かせることもある。

例えば、

二、三人のグループが絵を画いている、また、何か製作をしている。その中に友だちの行動に刺戟され誘導されて、次第に私もやる私もやると組全体が集まつてきて同じ活動をはじめる。

また、音楽リズムやお話、うたなど、教師がまわりの五、六人の幼児を相手にお話したり、うたったり、リズムしたりしている中に

次第に集まつて組全体の活動になり、教師もその発展をのぞみ、計画し、組全体の活動に移つてから教師はまた改めて計画をすすめる。

などの場合がある。幼児の遊びの中へ教師の計画を入れていく幼稚園期の指導であるから、学級としてまとめて活動する時間も、みた形においては変わらないが、その過程は、大きな実質的な差がある。

× × × × × ×

以上の二つの状態を考えても、幼児期の心理を読みかえしても、幼児の発達段階を考えても、目前の幼児の生活状態を観察しても、この「学級としてまとめて活動する時間」とは、いかにもむずかしく、へたをすると小学校と同じ指導状態になつてしまふし、また幼稚園という、家庭とはちがう場で、同年令の友だちが集まつて生活していく社会では団体的生活も当然必要になつてくるし、と考

え、幼児を幼児とし、（おとなの小さいものでなく）生々と生活させ、そして幼児に適切な指導、経験をさせるには、学級としてまとめて活動する時間、をどのように考え、どのように幼児の生活に折り込み利用していいたらよいか、ということは、よくよく考え、よくよく研究して使うことが私共幼稚園教師の一番大切な事ではないだろうか。

では、"学級としてまとめて活動する時間"を前述とはちがう状態において使用し、経験させたらどうであろうかと考えてみよう。

団体生活をするこの幼稚園という場においては、前述のように、もちろん、学級としてまとめて活動することが多くあり、また家庭ではできない必要な時間であることはたしかである。が、幼児期の幼児の発達段階を考える時、幼児の一日の生活や、幼児の遊びを時間によって区切ったり、時間で中止したりして、学級としてまとまって活動する時間をくりかえし多く持ち、これをくりかえすことを幼児教育だとか、指導だとか考えるのはいかなるものだろうか。よくある例に、幼児教育の原理を知らない父兄が、学級としてまとめて活動する時間を見て、"ああ我が子は指導されている"と安心し、すべての経験を、このまとめて活動する時間ばかりをくり

かえしおこなっている教師を、よく指導して下さると感謝したり、きちんととよくまとまって上手だと考えたり、またあべこべに幼児を幼児として生かして生活させながら指導している時間（例えばグループの指導、興味を誘導しながら遊びの中での指導など）をみて、あの先生は遊んでばかりいて何もしていないうとか、また我が子がそのグループにいないで遊んでいると、心配してわざわざつれて来てそのグループに入れようとしたりする。こんな例は私共幼稚園教師がよく、やはり幼稚園ということがわからないから、となげく一例であるが、私共教師でも、"学級としてまとめて活動する時間"を多く持ち、そのある時間が来たら、ベルが鳴らないまでも皆を部屋に呼び入れ、まとめて活動を開始し、教師の計画を実行し、それがおわると遊ぶ。何事も経験させる場合はいつも学級としてまとめて活動し、幼児を自由な世界におくのは、いわゆる学校の遊び時間と同じに自由に遊ぶ時だけで、経験と自由あそびとはつきりと分けて毎日を過ごしている所は少なくない。

かくすることは、教師にとっては実にらくである。一室に一箇所に教師の目的とどく所に幼児はいるので、方々に気をくばり、仕事をしている人を指導したり、遊んでいる人を指導したりする神経を使つたりという忙しさはない。

説明もまとめてしてあとは机間巡回をして指導していればよい。で、教師の計画もひとり残らず徹底させるにはよい方法で、幼児の興味があるが、なかろうが、皆がやっているし、材料を与える

れたからおもしろくもないがやるということになってしまい、その

幼児の活動には制約があるから自発活動は阻止され、幼児の活動は一見まとまっているようだが生気が失ってしまいます。幼児の興味もなく、たのしみもなく、したがって創意工夫などなく事務的なことになってしまいます。教師は自分の計画がすべてにゆき渡ったり静かによく指導されたと満足するが、幼児は実に満足であろうはずがない。

常にこのような活動のみ続いている幼児は、団体行動は上手になるであろうが、教師の指示を常にまち、指示がないと行動の開始できない幼児が将来でき上がってしまう、よろこんで、たのしんで経験するという意欲は失われてしまう。

私共幼稚園教師は何を教育するのか。将来の学習を受け入れる態勢を、意欲を養い、自由感にみちみちながら適切な経験をすることがどれだけ幼児期に大切か。今一度考えてみることが必要である。

自由にやりたい事をやらせその遊びの中で指導していくは、学校へいって困るのではないだろうか。学校で時間に区切りをつけて學習していく体形にしていくには、何も幼児期に無理にでき上がるせておく必要はなく、学習がうまく出来るよう児童をしむけるのは、小学校の先生の仕事だと思う。何も幼児期からそのように躊躇する必要もなく、幼児期は幼児期として必要な生活をじゅうぶんさせるべきである。

小学校の学習形態でさえ、低学年は幼稚園に近づこうと努力している時に、何で幼稚園が、『学級としてまとまって活動する時間』

を生活の主体と考える必要があるであろうか。

ある幼児に、こんな例がある。母親がすごく几帳面で、また熱心で、家庭でも幼稚園から帰ると、『遊びの時間』と、『おべんきょうの時間』といつて絵をかかせたりして区別していたかたがあった（幼児の口よりこのことも聞いた）。その幼児がある時、ふともらしたことばに、『ああ自由な時間がほしい』。このおとなびたことばに私もはっとし、意味がわからず使っているのでなく、前の事といい、思いあわせ、早速、お母様と話し合った。その後幼児が明かるく、前にもまして物事に熱心に意慾旺盛になり圧迫感がそれのびのびとなつた例を持っている。

時代がすすみ、幼児も次第に昔より成長してきたが、何も成長してきたからと、幼児を幼児より無理に離脱させる必要はないと思う。幼児期をじゅうぶんに幼児らしく過ごさせてることが将来にどんなにプラスになることだろう。

今一つ考える事は、経験内容によつては、『学級としてまとめて活動』した方が効果的であると考える考え方がある。例えば、音楽リズム、お話、軍隊ごっこ、ラジオ、テレビを視聴するなどが考えられる。が、幼児期においては、経験はさせなければいけないが、上手にさせなければ訓練的なことは必要はない。また必ずまとめてました方がよい、効果的であるとも限らない。幼稚園では効果とかできばえとかの結果よりも、幼児がたのしんでいたか、よろこんで参加したかの、その過程が大切であることは言うまでもない。

それゆえにこれらの経験内容もやり方によつては幼児の興味中心に

遊びの中に入れたり、引き出したり出来ると思う。(58卷12月号)

「自由遊びの主張」にくわしくある)

前文(1)に記したように教師の意図によりこのような時間にすることは別として、学級としてまとまって活動するものと決めてしまうのはあさはかではないだろうか。前文(2)のように自然に学級としてまとまって活動する時間になることがのぞましいのではないだろうか。

もう一つ、健康面より考えてみると、

結局、「学級としてまとまって活動する時間」には、静的も、動的もあるが、前述の、興味もない幼児も、ある幼児もすべて、教師の掌中に入れられ、ある一定の時間までは自由感を持たない籠の鳥と同じである。これは非常なる疲労感を与えると思う。幼児が疲れているようだから、部屋に入れて静かにお話でも聞かせようと考えるのはますます疲労感をますことである。幼児はじつとさせておく

ことが非常に疲れるのであるということが、かつて某大学研究室で研究発表されたことがある。この事と同じことだと思う。教師の疲労感とあべこべに幼児の疲労感は増す。

××

××

××

このようにいろいろ考えていくと、

「学級としてまとまって活動する時間」は教師の正しい判断のもとに、正しい幼児教育原理をしつかりと考え、知つて後に持つべき時間で、教師のあさはかな考え方や、また逆にあやまつた教育熱のために連続的に使われ、幼児の生活をこわさないよう注意したいものである。

私の所は園の環境施設がそういうわけにいかない、という声はよく聞く。しかし教師の腕がないから、施設がそのようではない、人數が多いから、といって大切な幼児期をじゅうぶん幼児期として活やくさせないで、幼児の大切な芽を押さえたり、つんだりしてしまってはたいへんである。その環境、施設、人數で一番最上の教育指導をし、理想に少しでも近づこうと、近づけようと努力し、技術をみがくよう努力するのが私共の使命であり、仕事のよろこびではないだろうか。

☆

☆

☆